

令和5年9月25日

下野市議会議長 石田 陽一 様

議会運営委員会

委員長 秋山 幸男

議会運営委員会視察報告書

議会閉会中、当委員会の視察を実施しましたので、その結果について報告いたします。

記

1 視察期日及び視察地

令和5年7月11日	北海道登別市議会
7月12日	北海道苫小牧市議会
7月13日	北海道千歳市議会

2 参加者

委員長	秋山 幸男	副委員長	大島 昌弘
委員	村尾 光子	委員	貝木 幸男
委員	伊藤 陽一		
議長	石田 陽一	副議長	相澤 康男

3 視察事項

北海道登別市議会	議会改革の取り組みについて
北海道苫小牧市議会	議会改革の取り組みについて
北海道千歳市議会	議会改革の取り組みについて

4 視察内容

(1) 北海道登別市議会

登別市は、北海道の南西部に位置し、9種類の温泉が湧き出す登別温泉は、保養地として全国的に知られている。昭和36年に登別村から登別町となり、昭和45年に市政施行し登別市となった。

市議会の現在の議員定数、現議員数はともに19人である。登別市議会は、議会改革度調査において、2021年に前年度ランキング97位からジャンプアップし2位に、2022年には全国1位を獲得した。

議会改革はIT化推進から始まり、平成12年度にIT推進に関する特別委員会を設置し、翌年度には登別市議会ホームページを開設した。14年度には議員へのパソコン貸与、21年度に議会中継開始やテレビモニターによる資料提示、24年度に議会サポーター制度開始、31年度には議会ホームページをリニューアルして、クラウド型とGoogleを併用する等、様々な改革が進められている。

ホームページは情報共有の場として捉え、政務活動費の公開（領収書掲載）、議会交際費の公開、会議資料の掲載等を行っている。さらに、令和2年度には、完全ペーパーレス化、グループウェアを導入し、令和3年度には「多様性のある議会」の実現に向けた手法の一つとし、オンライン委員会をコロナ禍に限らず様々な議員参画を支える仕組みとして導入している。同時に、令和3年度から事務局職員の提案制度を導入し、職員提案第1号では議長交際費基準の見直しを提案し、「議長交際費」を「議会交際費」に変更した。これは「多様性のある議会」は議員だけでつくるものではないとの考えによるもので、市議会全体の政策形成能力の向上を目的としている。

平成24年度から開始された議会サポーター制度では、市民サポーターと専門的サポーターがおり、市民サポーターは、市民協働を目指すための仕組みで、分野に関心・見識の高い市民がサポーターとなる。専門的サポーターは、議案審査や調査に必要な場合、年間活動や時事に応じて柔軟に指名している。市民サポーターは、15名以内で無償、各常任委員会に常設して年1回以上の意見交換を開催。専門サポーターは、5名以内、1常任委員会当たり2万円として、年間で10万円の予算があり、委員会で協議し、指名している。

以上が、登別市議会の議会改革の取り組み状況である。

(2) 北海道苫小牧市議会

苫小牧市は、北海道の南西部にあり、太平洋を臨み、積雪が少なく、比較的温暖な地域である。明治35年に7つの村が合併し、苫小牧村となり、大正7年には苫小牧町、昭和23年に市政施行し、苫小牧市となった。

市議会の現在の議員定数、現議員数はともに28人である。

議会改革は、平成23年5月から設置された議会改革検討会における協議から始まり、検討会議は新聞記者や傍聴者への公開とあわせて、インターネットによる生中継及び録画配信を行い、会議録をホームページで公開している。

平成28年4月には、苫小牧市議会災害時対応マニュアルを策定し、議会閉会中などに災害が発生した場合の対応に、議員の安否確認の連絡体制として、タブレット端末のアプリ「LINE WORKS」の活用を定めている。

このタブレット端末は、令和3年度に議会のICT化の推進として、Wi-Fi設置とあわせて導入しており、通信環境を整備することで、議会機能の強化及び議会情報の積極的な発信を行い、より一層市民に開かれた議会を目指すための取り組みである。Wi-Fiの設置については、大規模災害時において不安定となる通信網の強化を目指し、オンライン会議を可能とするため、議会が関係する9階、10階、11階に設置した。

苫小牧の市議会だよりは令和2年度末で廃止している。平成31年1月に市民アンケートを実施し、「発行しなくても良い」、「市の広報紙やホームページへの掲載で十分ではないか」という意見を受け、廃止の流れとなった。代替策として、定例会ごとに議決結果等をまとめた報告書の市議会ホームページへの掲載や、市議会ホームページと議員のSNSをリンクさせるなどしている。また、紙媒体での情報が必要な方へは定例会ごとの報告書をコミュニティセンター等に設置している。

市民との意見交換については、議会基本条例の広報広聴の充実の規定に基づき、議会活動に関する情報の積極的な公開及び発信並びに市民の意見の把握に努めるため、各常任委員会懇談会での開催とし、令和2年度から実施している。

以上が、苫小牧市議会の議会改革の取り組み状況である。

(3) 北海道千歳市議会

千歳市は、北海道の中南部・石狩平野の南端に位置しており、札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接している。大正15年、現在の新千歳空港の前身ともいえる飛行機の着陸場を造成し、昭和14年には滑走路を整備、その後、航空隊の配備により人口が増加し、昭和17年に千歳町へ、昭和33年には市政施行により千歳市となった。

市議会の現在の議員定数、現議員数はともに23人である。

千歳市議会では、議会基本条例ではなく、議会改革推進プランを策定し議会改革を進めている。民意の変化により、議員が大幅に改選した場合、条例より計画の方がより早く民意を取り入れることができると考えたためである。

この推進プランは、平成23年にプラン策定についてのワーキンググループを設置して検討を開始し、平成24年には「市民の声を聴く会」の開催と参加者アンケートを実施、さらに、市民（43, 200世帯）アンケートを実施するなど、平成23年度から計31回の検討を重ねて策定している。

また、平成26年には、43, 847世帯を対象に、議員定数や議員報酬等についてのアンケートを実施し、平成28年に、議員定数を25人から2人削減の、23人とすることを決定した。政務活動費についても議員1人当たり年間3万円から20万円への増額を決定し、条例を改正した。

「市民の声を聴く会」は、平成24年8月の開催から、令和3年度の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための中止を除き、令和4年度まで継続実施している。平成29年に開催した第5回「市民の声を聴く会」からは、各常任委員会のグループ別にテーマを設定し、話したいテーマのグループに市民が参加するグループトーク形式とした。この年から交流学習会も開始し、勇舞中学校との交流学習会、給食交流を皮切りに、昨年度までに6中学校との交流会を開催している。

令和2年8月には、議会・議員活動のICT化を推進し、効率的な議会運営を図り、業務の効率化、ペーパーレス化を目的に、タブレット端末を導入した。

以上が、千歳市議会の議会改革の取り組み状況である。

5 まとめ

行政視察を行った登別市議会は、議会改革度調査ランキングにおいて全国1位となる議会改革の先進地であり、苫小牧市議会、千歳市議会においても、市民の声を議会の活性化に活かす取り組みがなされていた。

初めに、登別市議会は、徹底して開かれた議会を目指していると感じた。傍聴者による写真撮影、録画・録音を認める取り組みが傍聴規則に謳われている。議会は公開の場であり、市民と情報共有することは当たり前との考えからである。このことは、自由な意見交換の阻害要因となる可能性も考えられるが、個々の議員が自身の発言に対する意識を高めることで、実現されているもので、品位保持の決議を行った本市議会において、大変参考となるものであった。

議会サポーター制度では、専門的サポーターによる常任委員会ごとのテーマに応じた専門家的な意見を伺うことができ、有意義な学習ができると感じた。様々な政策課題の共通認識を持つ意味では、議会全体での開催が望ましいと考えるため、本市では全体研修としてこのような制度を検討していきたい。

また、市議会のホームページが市のホームページから独立しており、掲載内容が充実している。各議員の活動がわかるようにリンクを設定、各委員会の会議資料も掲載され、活動状況が理解しやすい。本市議会ホームページへの、今後の掲載方法や掲載内容についての参考としたい。

次に、苫小牧市議会での特出すべき取り組みは、議会だよりの廃止である。市民アンケートの結果、廃止を決め、市議会のホームページを充実させる等の代替策を講じている。本市議会では、議会だよりを情報提供のメインとし、市民が気軽に手に取り、分かりやすい内容とするため日々研鑽しているが、市民が求める情報提供のあり方を、費用対効果を念頭に研究する必要があると感じた。

また、開かれた議会を目指して、情報公開が進められている。政務活動費については、用途や成果を公開し、1円でも領収書を必要としていた。本市議会では政務活動費の支給はないが、議会活性化特別委員会の検討事項でもあるため、今後の参考としたい。

令和2年度から実施されている市民との意見交換は、委員会ごとの懇談会

で懇談者（対象団体）を決定し、懇談者の参加しやすい場所での開催が行われている。本市においても、学校や図書館、公民館等で実施するなど団体に応じた懇談方法を模索したい。

次に、千歳市議会の議会改革の取り組みは、議会改革推進プランを策定したことである。議会基本条例の制定が主流である中、地域の実情を鑑みての推進プラン策定は、賢明な方法の選択と感じた。プランに基づいた具体的な事業や事務について、毎年度、実施計画を立て取り組まれている。本市議会の議会基本条例についても、定期的な点検・検証を行うことにより、今後の課題を明確化し課題解決に向け計画を立て取り組んでいきたい。

「市民の声を聴く会」の開催や、若者の政治社会参加を促す機会の創出に向け積極的に取り組まれている。中学校での、生徒と議員と一緒に課題を考えていく授業の交流学习会や、議員と生徒が給食を食べながらの給食交流の開催は、和やかな雰囲気の中で会話が弾み、相互の理解が深まる取り組みであり、大変参考となった。本市議会においても、中学生に対し協働のまちづくりや政治に関心が膨らむ機会となるような、積極的な展開を検討したい。

また、市作成のPRビデオが研修の冒頭に流れ、執行部と議会が一体となり千歳市を盛り上げようとする姿勢がうかがえた。本市議会においても見習うべきことと感じた。

最後に、議会基本条例に基づく取り組みのさらなる充実と、開かれた議会を目指すため、視察により得られた先進的な取組事例を参考に調査研究を進め、市民から信頼される分かりやすい議会となるよう、今後も本市議会の運営に鋭意取り組んでいきたい。